

# けもの新聞

The Wildlife Times



けもの No.01

## ツキノワグマ

人身被害危険度



体長：120～150cm  
 体重：50～120kg  
 嗅覚：犬並みに良い。  
 聴覚：高音の方が聞こえる。  
 視覚：あまり見えていない。

・走るスピードが速く時速40kmで走ることができ、木登りが得意。

・食べ物は基本的に植物性を中心の雑食性（甘いものを好む）。  
 ・臆病な性格で、基本的には人を避けて行動する。



喜多方市鳥獣被害対策実施隊がお送りする野生鳥獣に関する情報紙です。

### 令

人間とクマの狭間で

和7年度は、全国的なツキノワグマの大量出沒が社会的な問題となりました。その大きな要因の一つと考えられるのが、山の中の食糧不足です。ツキノワグマは冬眠する生き物であり、秋は特に冬眠に備えて起きている時間のほとんどを食事に費やしています。昨年の異常事態は、その秋に実る山の中の堅果類（ブナ、ミズナラ、コナラ）の実りが凶作であったため、腹を空かせたクマたちがやむを得ず人里に下りてきたものと考えられます。

農作物などを口にしたりクマは、味を覚え、繰り返し集落へ出沒するようになってしまします。食べ物がなければ、わざわざリスクを冒して人里へ出沒するクマは減っていくはずですが、環境の変化は今すぐにどうこうできる問題ではなく、山の堅果類の実りも、人間の力ではどうすることもできません。しかし、クマを引き寄せてしまう柿や栗、農作物などは、人間の手で適切に対処できるはずですが、クマからすれば、実ったままの柿などを放置することは、貴重な食糧が人里付近に撒かれていっていると状況であると言えます。私たちは、そのことをよく理解しなければなりません。

昨年度はテレビなどの報道が過熱し、ネットニュースのコメント欄には「クマは全頭駆除するべき」という極端な考えが散見されました。ただし、理解しなければならぬのは、クマもまた生き物であり、食べるため、子を育てるため、生きるために必死だということ。

やむを得ず訪れた人里周辺で、放置されている柿や栗の果樹、廃棄野菜などの



11月～12月に冬眠に入る。  
メスはこの間に出産・子育て。食事はとらない



冬

冬眠に備え食欲が増す飽食期。起きている時間は、ほとんど食べている。



秋

▲主食のブナの実

1年半の子育てを行い、夏頃に子別れ。6～8月は繁殖期。この時期は食べるものが少なくアリなども食べる。



◀アリの巣

3～4月に冬眠から覚め、活動を再開。動物の死体やサクラ類の花を食べて体力回復。



類の花を食べて体力回復。

春

▲シカの死体

突然ですが、クマの手をまじまじと見たことがある方はほとんどいないと思います。成獣の実物の大きさがこの写真です。この大きさの手と鋭い爪の一撃は、当然命に関わるものになると容易に想像できます。

鳥獣被害対策実施隊は、消防団と同様の市の組織であり、市民の生命や身体、財産を守るため、緊急対応やわたの設置などの捕獲活動を行っています。

昨年のツキノワグマの捕獲数は市全体で250頭を超えました。令和5年度の158頭を優に超え、これまでで過去最多の頭数となりました。実施隊員は、昨年度少なくとも250回、クマに銃口を向けたということ。隊員の中には、捕獲・駆除した動物のために供養塔を建てたり、毎年お祓いを行っている隊員もいます。専門的な知識を有し、市民の生活を守るために捕獲や駆除を行っているとは言い、実施隊に所属している隊員もまた市民であ

クマとの対峙

り、生身の人間です。その身体的・精神的負担は、一般の市民の皆さんにはなかなか理解されていないのが現状です。鳥獣に関するさまざまな相談や要望に答え、クマなどの危険鳥獣と対峙し、日々命の危険と隣り合わせの活動をしていることを市民の皆さんにはご理解いただきたいと願います。

昨年のクマの大量出没に対応する中、「集落付近に繰り返し出没するため駆除してほしい」との依頼が多く寄せられました。確かに集落付近を餌場と認識してしまつた個体は駆除の措置を取らざるを得ないところですが、一方で、集落には、クマの痕跡が色濃く残つた柿の木が放置されていたり、雑草・やぶが十分に刈り払いされていなかったり、ごみが散乱していたりする現場が多いのが現状です。「捕獲が必要だ」という状況になる前に、まずはそうした状況を生み出している原因を見つめ直すことこそ重要です。

### 未利用果樹等伐採支援事業補助金

野生鳥獣の出没抑制のため、柿・栗などの誘引物となっている果樹を伐採する際に補助金を交付しています。誘引物の除去は、ツキノワグマの出没抑制に特に効果の高い対策の一つです。

右の写真のように、幹に爪痕が残っているような果樹については、繰り返しの出没につながるリスクが高いため、利用していないのであれば伐採を検討してください。

詳しくは市ホームページをご覧ください。

